

教科 外国語（英語）

	指導の重点	努力事項
指導計画の工夫	○ 各学年の目標を明確にし、子どもや地域の実態等に応じた言語活動が行えるよう指導計画を改善する。	○ 単元のねらいや内容等に応じて、学習指導要領に示された20の言語活動を位置付け、単元間の関連を図りながら、年間を通して4技能を総合的に育成する。 ○ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を踏まえて、各単元でどのような力を身に付けさせたいかを明確にして、指導内容や活動などの配列を見直す。
指導の工夫	○ コミュニケーション能力の基礎を育成するために、子ども主体の授業を展開する。	○ 子どもが英語を使って活動する時間と機会を増やすために、教師が英語で授業を進められるよう英語力の向上を図る。 ◎ 即興的な言語活動の過程で、「どうすればできるようになるか」子どもに気付かせたり、考えさせたりする場面を意図的に設定して、自ら学びに向かう態度・姿勢を育成する。
評価の充実	○ 目指す子どもの姿を明確にし、評価が指導につながるよう一体化を図る。	◎ 授業のねらいに即した視点で言語活動を振り返ることにより、身に付いた力や課題があるところに気付かせ、自律的学習者として主体的に学び続ける態度・姿勢を育成する。 ○ 筆記テストのみならず、パフォーマンス評価、活動の観察等、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択し、それに基づく適切な支援を行う。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント2（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P5）

ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計

◎ **即興的な言語活動の過程で、「どうすればできるようになるか」子どもに気付かせたり、考えさせたりする場面を意図的に設定して、自ら学びに向かう態度・姿勢を育成する。**

- ・ どの技能に焦点を当てるのかを明確にした上で、ねらいに合った言語活動を設定する。
- ・ 言語活動のモデルやフォーマットを提示し、見通しをもたせる。
- ・ どのような復習や練習をすればよいか気付かせたり、考えさせたりする。

例① 自分たちの活動のつまずきの要因と改善策を考えさせる。

② 教師があるペアやグループの活動が改善するよう指導している場面を示すことにより、自分たちが改善すべき点に気付かせる。

③ 模範的なペアやグループの取組のよい点に気付かせる。

- ・ 言語活動における子どもの誤りについて、ねらいに合った訂正の在り方を想定しておく。

【誤り訂正の例】

Emi: What color do you like?
Shin: I'm like blue.
Ms. Saito: Oh, you like blue.
Shin: I'm.....

Shin, don't be afraid.

I like red. How about you?
Emi, ask him again.

I like blue.

What color do you like?



授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **授業のねらいに即した視点で言語活動を振り返ることにより、身に付いた力や課題があるところに気付かせ、自律的学習者として主体的に学び続ける態度・姿勢を育成する。**

- ・ あらかじめ振り返る視点を明確にしておく。

例 一人一人の目標を設定する。

ねらいを達成した具体的な姿を示しておく。

- ・ 子どもに「英語を使って何ができるようになったか」を実感させる。

例 ペアで話し合っ旅行したい場所を決めることができた。

習っていない語の意味を推測して文章の概要を読み取ることができた。

- ・ 次時以降の学習が充実するように家庭学習等でできることを考えさせる。

例 今日の活動で使った英文をもう少し音読すれば、自然な会話ができると思う。

○○さんが上手になったので、どんな学習をしたのか聞いてみたい。

※ 平成27年度「英語教育推進リーダー中央研修」DVD教材（平成28年7月 文部科学省）